

## 令和3年度 加古川市教育委員会不登校児童生徒対策本部会議及び

## 加古川市教育委員会不登校対策推進委員会の実施状況

## 1 加古川市教育委員会不登校児童生徒対策本部会議について

- 令和3年5月17日（月） 第1回加古川市教育委員会不登校児童生徒対策本部会議を実施
- 令和2年度加古川市における不登校の状況及び不登校対策について報告
- 令和3年度加古川市の不登校対策について協議
  - ・各学校が不登校対策に注力できるよう関係機関との連携を強化していく。
  - ・不登校児童生徒の支援のため、メンタルサポーターや適応指導教室を活用していく。
  - ・不登校児童生徒の家庭への福祉的支援を促すために、スクールソーシャルワーカーや学校支援ソーシャルワーカーを活用していく。
  - ・「地域みらい留学」や民間が運営するフリースクール等との連携を強化し、児童生徒の社会的自立を目指していく。

## 2 加古川市不登校対策推進委員会について

- 活動状況および今後の計画

回	月/日	会場	内容
1	5/24 (月)	リモート	・令和2年度の不登校対策の推進について
2	6/24 (木)	加古川市民会館 大ホール	講演：「子どもの声に耳を傾けていますか？ 一様な問題を抱える子どもを支援するために―」 講師：フリースクール For Life 副理事長 矢野 良晃 氏
3	9月	各中学校 (中学校区ユニット単位)	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・各校の不登校対策の実践について ・小中連携の在り方について
4	11月	各中学校 (中学校区ユニット単位)	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・各校の不登校対策の実践について ・気になる児童生徒の現状について
5	2/24 (木)	青少年女性センター	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・各校の不登校対策の実践について ・小学校から中学校への引継ぎについて

- 第1回を振り返って
  - ・昨年度は、第1回を紙面会議にしたが、今年度は、リモートで開催することができた。参加した委員から質問が出されるなど、紙面会議よりも共通理解が深まったと考えられる。
- 第2回を振り返って
  - ・一般参加者（保護者を含む）17人、教職員208人、合計225人の参加であった。
  - ・参加者のアンケートを見ると、概ね高評価（平均3.37/4件法）を得たと考えられる。
  - ・アンケートの記述を見ると、「自分自身の接し方を振り返ることができた」「子どもの話を聞くことの大切さを改めて感じた」というような記述が多く、参加者が子どもへの接し方を見つめるきっかけになり得たと考えられる。また、教職員からは、「聞くことの大切さはよくわかるが、時間的にも人的にも余裕がない」という記述も一部見受けられた。学校現場をサポートできる体制づくりに今後も努力していく必要があると考えられる。

## 令和3年度 メンタルサポーターの実施状況（8月末現在）

青少年育成課 教育相談センター

### 1 別室利用状況（のべ人数）

	令和2年度*	令和3年度
合計利用者数	2,087人	3,315人
一校当たり月のべ人数平均	34.8人	55.3人

### 2 家庭訪問実施状況（のべ人数）

中学校 学年	令和2年度*		令和3年度	
	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均
1年	15人	0.3人	13人	0.2人
2年	106人	1.8人	40人	0.7人
3年	178人	3.0人	83人	1.4人
合計	299人	5.0人	136人	2.7人

### 3 不登校生徒及び不登校傾向にある生徒の改善状況（のべ人数）

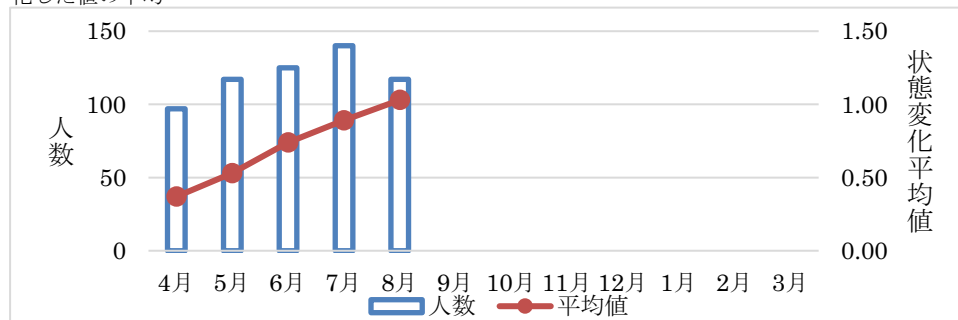
改善内容	令和3年度	
	合計	月平均
不登校傾向にある生徒が、主に教室で過ごせるようになった。	123人	24.6人
” 主に別室で過ごせるようになった。	355人	71人
” 主に保健室や玄関先等に登校できるようになった。	34人	6.8人
” 主に放課後登校できるようになった。	17人	3.4人
” 主に関係機関等で過ごせるようになった。	19人	3.8人
合計	548人	124.6人

### 4 メンタルサポーターの支援による生徒の状態変化

	4月	5月	6月	7月	8月
人数(人)	97	117	125	140	117
平均値	0.37	0.53	0.74	0.89	1.03

※人数：メンタルサポーターがその月に支援した実数。

※平均値：前月と比較した生徒の状態をメンタルサポーターの見立てで「好転（+1）」「退転（-1）」「維持（±0）」で数値化した値の平均



### 5 昨年度との比較

昨年度の同時期と比較すると、昨年度は4、5月が休業期間であったことを踏まえても利用生徒数は増加している。実際、一昨年度（令和元年）と比較しても大幅に増加している。これは、メンタルサポーターに対する役割、期待が高いように思われると同時に、登校しづらくなった早い段階で、メンタルサポーターや別室を心の拠り所にする生徒が増えきたと考えられる。

また、家庭訪問の数が昨年度と比べて減少している。これは別室利用者増加に伴い、メンタルサポーターは別室運営を中心にし、家庭訪問は主に学級担任が担っていると考えられる。メンタルサポーターからの報告によると、家庭訪問を通して、登校が継続できるようになった生徒も増加している。

※令和2年度は、4月5月の長期休業期間中を含む。令和2年度8月末の数値。